

こども新聞

週刊かほピヨンプレス

毎週日曜発行

2026 2/8

・河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうのテーマ

みんなの将来

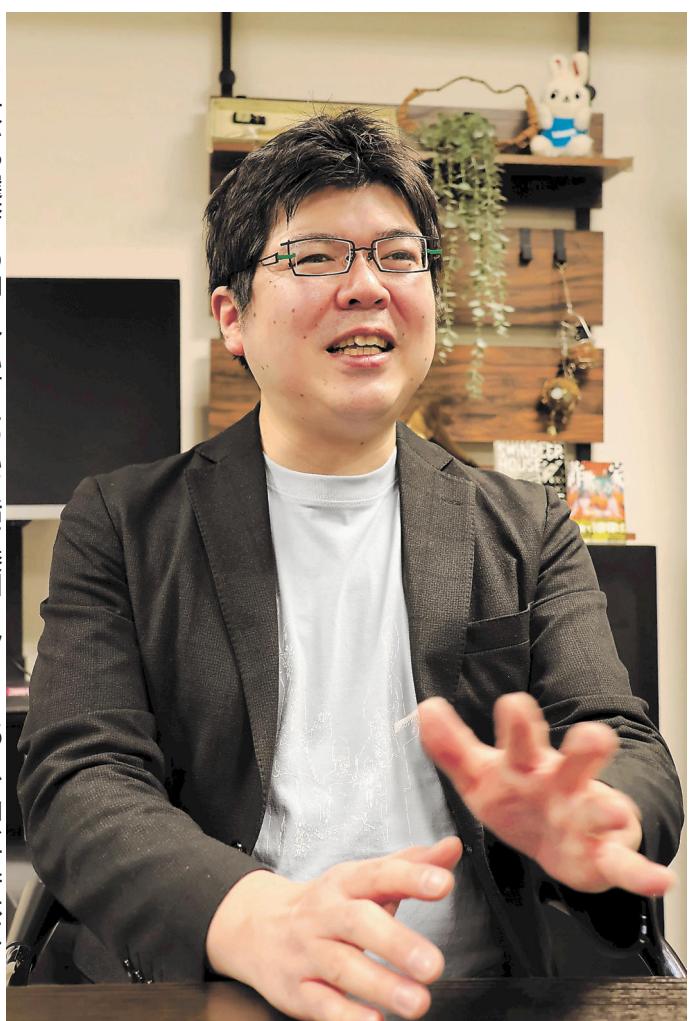
みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

きょう
8日は衆院選
の投開票が行われるよ。
政治に関心を持つて票を
投じることは、国連の持
続可能な開発目標（SD
Gs）の16番「平和と公
正をすべての人につ



うるしだ・よしたかさん 青森県階上町生まれ。東北大卒。NPO法人メディアージ常務理事を務め、インターネットやラジオで政治や宮城・東北の地域情報などを発信しています。

話す漆田さん

1月16日

仙台市若林区

地球のためにできること

衆院選きょう投開票

16 平和と公正をすべての人に



いたよ。

（8面に連記事）
「間違うのが怖くて投票に行かない」

漆田さんは10代、20代の若者と政治や選挙について話すとき、こんな不安の声をよく耳にします。



ながる行動なんだ。選挙権がない小中学生のみんなに知っておいてほしいことを、若者向けに政治や選挙の情報を発信するNPO法人メディアージ（仙台市若林区）の漆田義孝さん（42）に聞

「間違う」とはどういうことでしょうか。
投票に行かない理由に「関心がないから」とい

漆田さんは、「一つの正解や考え方を前提に議論するものが政治ではなく、いろんな考え方を持つた人が集まり議論するのが国会や政治の場です。だから正解、不正解はありません」と話します。

最近の子どもたちは学校でSDGsを学ぶなど、社会課題や世の中の問題と向き合う機会が多くあります。これまで学んできたことや、生活の中で感じたことから「私はこういう社会がいい」という物差しを持てれば、考え方が近い政治家や政党を見つけることができます。

漆田さんは言います。「投票先を考えるときの物差しにも正解はありません。どんどん変わっていいと思います。『間違うのが怖いから投票しないでおこう』と考えず、自分たちの素直な視点で政治に参加してほしいと思います」

素直な視点で政治参加を

う人もいますが、「投票した人が当選しなかったらハズレで、正解を選べない」「間違った人に投票して世の中が悪くなってしまったらどうしよう」といった考え方の若者も多いそうです。



漆田さんが、若い世代に伝えたいのは、「（判断の基準となる）自分なりの物差しを持つようにしてほしい」ということです。

- 2面 イマ★どき
3面 3分チャレンジ
4・5面 わが校わがまち スクール通信
6面 キホンがわかる こども英語
7面 投稿特集
8面 漆田さんに聞く

この日 何の日

◇8日 郵便マークの日

1887年のこの日、郵便を担当する当時の通信省が郵便マークを決めました。最初は「T」でしたが、6日後に「〒」に訂正されました。デザインの由来は通信省の片仮名の頭文字「テ」など諸説あるそうです。

きょうの紙面